

悩みました。1度だけ「辞めよう」と決めたことがあったんですが、決心すると怖いものがなくなつて、平気で先に帰れるようになりましたけど。(笑)

竹中 大平さんは弁護士ですが、今はその仕事をセーブして子育てをしておられる。

大平 初めは仕事を続けるつもりでベビーシッターさんに依頼したんですが、娘が泣いてどうしようもなかったんですね。もともと私が仕事を継続しようと思ったのは、「私が障害を持つて生まれたからお母さんは仕事を辞めた」と娘に思つてほしくなかったから。だから、娘が「お母さん、そばにいて」と私を求めるのなら、とりあえず仕事はおいておこうと考えました。でも子育て中心の生活を始めてからも、自分の環境で何ができるかということは常に考えています。

竹中 ご自宅にうかがうと窓辺にきれいなステンドグラスの額が何枚も飾られていて、「私が作ったんよ」とステンドグラスの絵本をもう2冊も出しているんですね。

竹中・おかんがオタオタしないということはおかんの気持ちの安定のためにも大切なこと



フォーラムは手話通訳に加え、文字通訳もつけて開催された

をつかみ取り、しかも楽しんでおられる。何があつても、おかんがオタオタしないということは子どもの気持ちの安定のためにも大切なことです。

それからもう一つ、子育てというのは、親を人間として鍛える面もあると思います。私は子どものころからワルで親不孝の限りを尽くしてきましたが、38年前に娘を授かってから更生したんですね。彼女が重度の心身障害を持つて生まれてきたことで、この子のスピードで生きているといいと、ものの見方が変わったというか、地平が拓けた。その後も子育てをするなかで娘に教えられることがたくさんあります。

大平 母親になったら変わりますよね。

大平 私が生きて暮らすことで、娘もまた「お母さんがいるから楽しいな」「私もお母さんのように、できることは何でも自分でしよう」という気持ちになれると思うんです。

竹中 お二人は大変なことが起きた時も、そのなかで何かプラスのこと



竹中 大平さんは青虫が苦手だけれど、悠ちゃんが好きにならなかったように、見つけても、こめかみ辺りをびくびくさせながら平気を装っているんですよ。(笑)

村木 私は下の子が生まれてから部下に優しくなりました。幼い時、色とりどりの庭のチューリップを見た上の娘は「○色と△色が咲いた」と言い、同じ年頃になった下の娘は、色ではなく数をかぞえた。持つて生まれたものはこんなにも違うんだ、それぞれのいいところを大事にしたいといけないと思つたら、部下を叱れなくなつたんです。

大平 童謡「チューリップ」はまさしくそういう歌なんですね。金子みすゞの詩じゃないけれど、みんな違つていいんだよという意味が込められています。子どもたちに、もっともって聞かせてあげてください。

竹中 「一人ひとりの子を大事に」がユニバーサル子育てのキーワードだということですね。私はそこにも一つ「女は度胸、男は愛嬌」を加えたい。先ほど井戸知事が、私たち3人を評して「女は度胸」だとおっしゃいました(笑)。女たちは何が起きても度胸で乗り切る、男たちが愛嬌で子育てを支える、そういう時代に移ることもまた必要だと思っています。